



TKK 共通シラバス

1. 科目名	国際協力論 I				
2. 教員名	杉木 明子		3. 担当大学	神戸学院大学	
4. 対象学年	2年生以上	5. 開講時期	後期	6. 単位数	2単位

7. 主題と目標、授業のねらい及び具体的な達成目標

<主題>本講義では、第二次世界大戦終了以降、国際社会において実施されてきた開発援助の方策を概観し、どのような開発援助が望ましいかを考察する。

<目標> 本講義では以下の3点を目標とする ① 1945 年以降実施されてきた開発援助の実態とその問題点を理解する。 ② どのような開発援助が必要であるかを過去の事例や現在のプロジェクトなどから考察する。 ③ ①と②をふまえて、日本が今後どのような国際協力を行うべきかを考え、その方策を受講生自らが考え、提示する。

8. テキスト、参考書、指定図書

<テキスト>下村恭民ほか『国際協力 新版—その新しい潮流』有斐閣（注：2009年に出版されたものを使用）。このほかによんでほしい文献、資料は授業の際に紹介する。

<参考書>戸川正人『日本のODAの国際評価』福村出版
伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書
草野厚『日本はなぜ地球の裏側まで援助するのか』朝日新書

9. 事前、事後に受講してほしい講義等

【事前受講してほしい講義等】

【事前受講してほしい講義等】

10. 提出課題など

授業時にコメント・カード、リアクション・ペーパーの提出などを適宜指示する。

11. 評価基準

平常点20%、定期試験80%による総合評価。

12. 学生へのメッセージ

本講義では、適宜グループワーク等の参加型アクティビティを行う。そのため毎回意欲と目的意識を持って受講してほしい。今後の授業の方針、運営方法などを第1回目の授業で説明するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席してほしい。なお、本講義は3大学合同の遠隔授業であるため、状況に応じて講義内容が変更する場合もある。

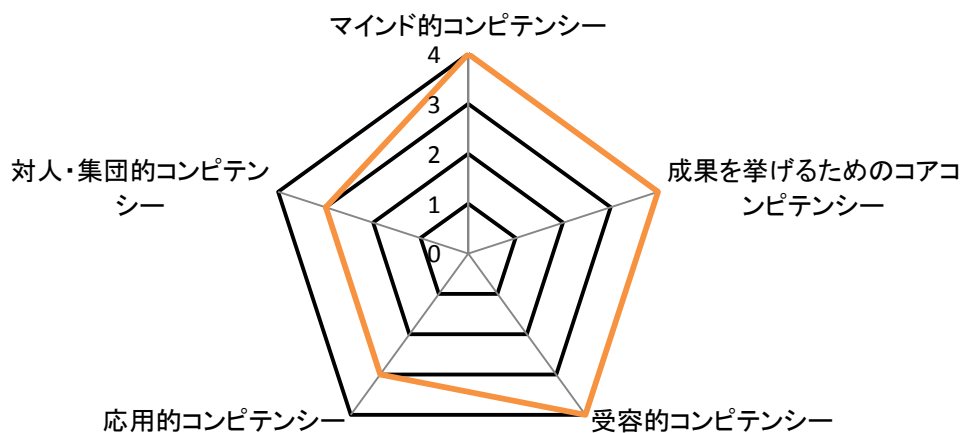
13. 参考（ホームページ、オフィスアワー等）

【授業計画】

講義番号	主題	内容
第1回	国際協力とは何か	国際協力に関する様々な議論を説明する。またグループワーク等に関する説明を行う。
第2回～4回	開発援助の歴史の変遷	1945年以降の国際協力の潮流を説明する。
第5回・6回	貧困削減	世界銀行による貧困削減の取り組みを概観する
第7回・8回	平和構築と復興支援	紛争後の平和構築における開発援助の役割を概観する
第9回・10回	各国の開発援助の実態(1)	日本がこれまで行ってきた開発援助の実態を検討する。
第11回・12回	各国の開発援助の実態(2)	デンマークによる開発援助の取り組みを考察する。
第13回・14回	市民による国際協力とNGO・NPOの取り組み	フェアトレード、マイクロファイナンスなどNGOによる参加型開発援助の取り組みを考察する。
第15回	まとめ	受講生による報告とこれまでの授業のまとめ

【コンピテンシー】

本講義を通して身につけることが期待されるコンピテンシーは、以下のグラフを目安にしてください。



コメント

本講義では、国際協力に関する基礎的な知識を体系的に学びながら、過去の事例から今後の国際協力の方策を考えていきます。講義と参加型授業によるグループワークを並行して行ないますので、受身ではなく積極的に授業に参加してください。なお、国際協力の実態は国際情勢の変化に伴い変化していますので、世界史、国際政治、国際関係論等の基本書を事前に読んでおくと授業の理解に役立つと思います。